

## ごあいさつ

日本モンゴル文学会春期定例研究会の開催をお祝いし、ご成功をお祈りいたします。この研究会が長年にわたって途切れることなく定期的で開催され、モンゴル文学に関する研究と論議が行われてきたことに謝意を表しますとともに、この研究会を主催する日本モンゴル文学会の副会長として、私に開会の辞を述べる機会を与えていただいたことに深く感謝いたします。

モンゴル文学は、世界の諸民族の文学と共通する普遍的な本質を持っていますが、内陸アジアの高原で四季のめぐりに合わせて変遷する峻厳な気候の中に生まれ、現在まで持続的に受け継がれてきた遊牧的牧畜を起源とする文明と思想の表現という独自性もあわせ持っています。モンゴル文学の歴史的な遺産は、古代の遊牧民の事跡と思想を表現した口承文芸、中世の書面文学、伝統的な詩学の方法と世界の古典文学の成果を受容した近代文学という主要な〔三つの〕部分に区分できます。歴史とは誰かが記述するものですが、文学とはそれ自身がそれ自身を才能のある誰かに創作してもらうものなのです。その意味で、モンゴル民族の歴史的な道程や文明や思想の財産を文学の中から具体的に見つけることも可能です。モンゴル文学をこのような独自性の観点からさらに詳細に研究し、文学を通して両国の友好的な文化関係に貴重な貢献をされることが、日本モンゴル文学会の重要な役割と言えるでしょう。

モンゴル遊牧民族の精神文化の貴重な遺産である私たちのこの文学を、何百万人もの読者と定住文明を有する日本の国民に翻訳紹介し、研究上の確立した古典的な方法論によって詳細に研究し、私たちとは異なる視点から眺め、その価値を明らかにしてきた日本モンゴル文学会のみなさんに、私はモンゴルの作家と読者になり代わりまして感謝を申し上げる次第です。今後ともこの研究会の活動がさらに進展し、関係する領域が広がり、モンゴル文学の研究と翻訳に従事する日本の若い世代の育成に重要な貢献をされることを期待しております。

日本モンゴル文学会副会長  
モンゴル国立大学顧問教授 D.ガルバータル